

映画 芸能

「補い合って生きる2人を見て」

長瀬智也と福田麻由子



「ヘプンズ・ドア」

アリアス監督

「ヘプンズ・ドア」は余命わずかの青年と少女が、海を見ようと旅に出る物語。マイケル・アリアス監督は「死が見える。だからこそ今の『生』を実感する。振り返らない、前向きな一人を表現したかった」と話す。

原案は、一九九七年にドイツで公開された映画「ノッキン・オン・ヘプンズ・ドア」。ポップ・ディランの名曲か



「どこかアニメ的で、音楽も異世界を連想させる。『周りの風景はおどぎ話のようにして、二人の気持ちをは浮かび上げさせたかった』と監督。

当初は日本の風土を考え、目指すのを海ではなく、雪の降る地に変えようとの案もあったが、海に落ち着いた。監督は「生きていけるような動きや音があり、死を待つ二人の心象風景と重なり合つのは海しかない」。天国の扉を開けると、どんな世界か。考えた末、答えを見つけた。

監督は「男女や兄弟を超えた関係がおもしろい。病院暮らしで外の世界を知らない少女（福田麻由子）は強くなり、死を意識した青年（長瀬智也）は弱気になる。二人が、補い合って生きるところを見てほしい」と語る。

米国出身の監督は、ビジュアルクリエーターとして活躍。二〇〇六年、アニメ映画「鉄コン筋クリート」（松本大洋原作）で監督デビューし、今回が初の実写映画。

少女と青年が外の世界に出ると、モノトーンを感じさせる映像は色を増す。

※シネマライズなどで公開中。

（石原真樹）